

『けんちゃんとゲンゴロウ』

けんちゃん

(元気がよく大きな声で)

ゲンゴロウ君、はじめまして。

ゲンゴロウ君

(ひそひそ声で。高いかわいい声)

しゅしゅ、静かに。

もうすぐ、ぼくの子どもがタマゴからかえるところなんだ。

けんちゃん

(小さな声で) ごめんさい、ゲンゴロウ君。

ぼく、「けんちゃん」といいます。ドジョウ博士に連れてきてもらいました。

ゲンゴロウ君

(少し小さな声で) はじめまして、けんちゃん。

ぼく、けんちゃんのおじいちゃんにはいつもお世話になっているんだよ。

おじいちゃんのおかげでぼくの奥さんは田んぼで卵が生めるんだよ。そうですね、博士。

ドジョウ博士

そのとおり。ゲンゴロウは、水草のやわらかい茎のなかに卵を生むんです。

けんちゃんのおじいちゃんは、ゲンゴロウたちのために水草を全部ぬいてしまわずに、田んぼに残しておいてくれるんですよ。

けんちゃん

へえ〜!

ぼくのおじいちゃんって、えらいんだねえ。

ぬ

く



【解説】

ゲンゴロウの産卵

ゲンゴロウのオスとメスが出会うと水中で交尾をします。交尾をしたメスは6〜8月、コナギやオモダカの茎をかじり、そこへ卵を産み付けます。卵を守るための工夫です。

コナギやオモダカといった水田雑草は農家の嫌われものですが、ゲンゴロウをはじめとした水生昆虫が卵を産んで、命をつないでいくのに重要な役割を果たしているのです。